

昭和五十一年十一月二十八日 理事長就任挨拶

「塾生諸君に―理事長就任に当たって―」

理事長 前川昭一

私は先日の理事会で図らずも理事長に選任されまして当惑しています。和敬塾は（前川喜作）塾長自身がその必要性を感じ、自分の私財をなげうって設けたことはまぎれもない事実ですが、あくまでもそれは財団法人であり、公器であります。息子である私の理事長就任は、公器を私するような気がして固辞したのですが、種々の理由で結局理事会で議決されてしまいました。この上は、全く非力ではありますが、ベストを尽くしてその重責を全うしたいと考えております。

実は私は和敬塾設立当初から塾長の秘書のようなことをして今日に及んでおりますので、和敬塾の歴史の中の喜びも悲しみも、それなりに感じ取って参りました。その意味でも和敬塾が昨年二十周年を迎え、塾友が二千名になられたということは、誠にお目出たく感慨深いことでもあります。十年一昔と申しますが、今のよう

からも先輩の志を継ぎ、諸君とともにますます和歌塾を發展させて行きたいものだと願っております。

近頃の学生生活を見ていますと、一頃の学園騒動はすっかり影をひそめ、学園に落ち着きが出て来て、学生諸君も静かによく勉強しているように思えます。私どもの会社に毎年入社して来る新入社員諸君も、学力は結構よく出来る人達です。ただちよつともの足りないのは、勉強はそんなによく出来るのに『面白い人物』というか『個性のある人』が案外少ないということです。企業の側からいわせてもらえば、期待している人間像は学力プラス・アルファで、どちらかといえば、このアルファのほうに力点があるといつてもよいかと考えます。諸君は入社試験のために勉強しているではありませんので、企業が何を考えようが知ったことではありませんが、和敬塾設立の趣旨も実はこのアルファを身につけて頂きたいということであつて、今諸君がなすべき一番大事なことはこのこと

だと思ひます。

諸君の年頃は自己が形成されて行く年頃です。この時期に感じたことや、読んだ本や、接した人等々によつて深い感銘を受ければ、その人の人生がそれに沿つた方向に流れて行くように思ひます。私事で甚だ恐縮ですが、一つ自己紹介を兼ねて私の学生生活のことを申しのべてみます。私の学生時代は極めて平凡なものでしたが、私は哲学や宗教に興味を持ちました。西洋哲学は難しく、よくは判りませんが、何となく自分の血にそぐわないように感じ、東洋の哲学、特に仏教の浄土系思想にひかれました。しかしそれとて、一番根本である『弥陀の本願』がよく判らず、早大仏教青年会のメンバーにもなつて浄土教の辺りをうろろして行きました。そんな時、和敬塾の前身である宗教法人和敬会に釈大道老師という禪宗の師家が来られました。この老師との出会いが、私の学生生活の一番の収穫だったように思ひます。『弥陀の本願』がよく判らぬ。それは信ずる以外に手はない。

しかし信じられない。一体自分は何をしているのだろうかとウロウロしていた私に、信じられぬことは信ずるな。疑ってかかれという老師の指導は、生意気盛りの私をひきつけるに十分でした。それから大道老師への参禅が始まりました。卒業までのまる四年間、私なりに熱心に参じました。仏典も読みました。この時私に非常に幸いしたことは、文学部の存在です。禅を理解するために印度哲学、原始仏教、シナ仏教、日本仏教、及びそれらの歴史が有益ですし、仏教を理解するための仏教美術、つまり仏教建築、佛像、絵画、墨跡等。更には仏教と他の宗教と比較するためにキリスト教やマホメット教、これら一連の私の興味をひく講座がすべて文学部にもうけられているということです。文学部とはいいところだとつくづく思い、せっせと文学部通いをいたしました。したがって専攻の学科はあまり熱を入れませんでした。私は全然それを悔んでは居りません。学生時代に参じた釈大道老師の教えが私の思想の中心になつて物事を考え、会社を経営しておりますし、趣味といえば、仏教や東洋の思想、歴史、美術を中心とした読書及び禅文化、なかならず墨跡の鑑賞とコレクションといった具合です。

海外出張した時なども、印度で仏跡を回って感激したり、ソ連ではシルクロードのサマルカンド、ブハラ等を旅して、感慨にふけったりし

ています。

些かきれいことばかり申しのべて、お聞きぐるしかつたかと思いますが、私の学生時代の『禅』と『文学部』が、私の自己形成の核になつて今日に及んでいることを申しあげたかったのです。

私は諸君に仏教を信ぜよとか、マルキストになれとかいつているものではありません。和敬塾に居られる間に、よく自己を内省し、形成し、それを深めて頂きたいということです。塾はそのお手伝いをいたします。が、それをなすのは諸君自身です。塾長がよくいう『セルフ・メイド』です。ご精進を祈ります。

※当DVD収録のご講演録には、現在では不適切と思われる表現が用いられている場合がございますが、講演時の時代背景等を尊重し、当時のままといたしました。